

大阪スマートシティ戦略策定に向けた有識者懇話会構成員への
意見聴取について（概要）

【テーマ】

- ・副首都推進本部会議資料（案）について

【日 時】

- ・12月16日（火曜日）14時10分～47分 前田 みゆき 様
- ・12月16日（火曜日）15時10分～37分 森 一弥 様
- ・12月16日（火曜日）16時15分～40分 下條 真司 様

【形 式】

オンライン（Teams 会議）

【出席者】

- ・戦略企画課長
- ・戦略企画課参事 他

【資 料】

- ・副首都推進本部会議資料（案）
…次期大阪スマートシティ戦略（素案）第3章の抜粋

【議 事】

- ・概要は次ページのとおり

※以下、意見聴取順

(前田様ご意見等)

- ・ 3-1「社会を取り巻く環境の変化」のスライドは、大阪スマートシティ戦略 Ver. 1.0の時点から変化した点を中心に記し、変化したから3-2「次世代型スマートシティ(都市競争力の強化)のために必要な環境」に取り組む、というストーリーがわかりやすい
- ・ 3-2のスライドの前に、3-1のスライドを受けて、「だから『都市競争力の強化』の定義を変えなければならない」という説明が必要。すなわち、3-2のスライドの前に、「都市競争力の強化」の定義がどのように変化したかを示さなければならない
- ・ 3-3「大阪のスマートシティのめざすところ」のスライドで、「都市競争力の強化」の定義の「競争力が高い」、「革新的」という言い回しは一般的で、何も言っていないに等しい。どう変化するのか、具体的な方向性を示すべきである
- ・ 3-2、3-3の順番を変えて、現在の3-3で「都市競争力の強化」の定義の変化理由と具体的な定義を書いたうえで、現在3-2で記載している手段を示す流れがよい
- ・ 大阪らしさはもっと強調したほうがよい

(森様ご意見等)

- ・ インフラやデータセンター、電力をデジタルインフラと言っているように見えるため、データ連携基盤もデジタルインフラだと見えるようにするとよい
- ・ 現在の公民データ仲介サービス「ODPO (Open Data Platform in Osaka)」の民間データには「企業に問い合わせてください」といった文言があるが、今後は人間が直接データを見に行くのではなく、人間の指示のもとでAIがデータを使うという世界観になると思うため、そのあたりの連携具合について書いておくとよい
- ・ AIのためのナレッジという言い方は古いため、AI活用を考慮した認証方式や品質担保を行った基盤がデータ連携基盤と表現するほうがよい
- ・ 「何もかもAI」という書き方ではなく、主役は府民であり、それを支える役所が人口減少等の影響で働き手が少なくなる中でも、役所職員がAIを活用すると同時に、府民が利用できるAIの提供という両側面で、府民生活の充実に貢献するという書き方がよい
- ・ 「次世代都市型産業・サービス」の中に6つ挙げているが、金融取引など大阪にデータセンターがあることが高速化に直接的に重要なものと、自動運転などエッジの方が高速処理に重要となるものとの2種類あり、この部分を整理すると、唐突感が解消できる

(下條様ご意見等)

- ・「都市競争力の強化」は、都市課題を解決していくことがメインにあるべきで、都市課題の解決が「都市競争力の強化」に繋がるはず
- ・デジタルインフラの強化は重要
- ・サイバーセキュリティや人材育成が重要だと思うが、資料ではそれが見えない
- ・データセンターに関する記載があるため、ワットビット構想も記載したらよい
- ・3-2「次世代型スマートシティ（都市競争力の強化）のために必要な環境」のスライドに、脱炭素化も記載しておくべきである（GX と記載あるが、GX はすべてのインフラに関わるため、脱炭素化はもう少し強調してもよい）
- ・有事に対応できることが重要で、デジタルインフラに加え、エネルギーや食料に関してもレジリエンスが必要なので、しっかりと検討しておくべきである
- ・都市のレジリエンスは重要だと思うので、そこをデジタルでうまく支えるとよい
- ・レジリエンスは他の都市とともに作っていくというのがあるため、トレーサビリティはデジタルインフラの中にあってもよい

以上